

和牛農家の若者たちが Gyu・牛会を 立ち上げた!!

会長の妹尾啓司さんに
インタビューしました
立ち上げの目的は

会長の妹尾啓司さん



将来の夢は

飯南町の畜産が衰退していくのを止めたい。今は牛も経営も親のものだから自分の考えている経営や育て方を実践できないが、自分の時代になっても畜産農家を絶やさず続けていきたい。

親世代から応援メッセージ

(インタビュー)



那須 道弘さん

行政に対しての期待は

まず、自分たちでやってみたかった。自分たちの力でやってみなければ、力が付かないのではないかと思っている。出来るところまでは自分でやって、行きづまったとき相談に乗って欲しい。

若い世代で自分たちの考える牛を作ってみようというのが目的だった。今は自分が飼っていても事業主である父親の牛として扱われている。全共候補牛を飼育しているが、これからの牛はどういう牛がいいのか議論して、互いに共有することが目的で若手14名で結成した。



全共候補牛の世話をしているところ

親であれ子であれ、どこの家でも一緒だが、世代交代することが一番難しい。農業者は自分の考え方で経営をしているので、親と子の考えは必ずしも同じでない。世代交代をすることは大切なことだが難しい問題だ。親から見ると子供は半人前のくせに何を言っているという思いがある。親と子供とは目標としているところに違いがある。

酪農は300年の歴史があるが、和牛は昭和の初期に始まって高々80年に過ぎない、次の代に繋ぐことが出来れば100年の節目を迎えることが出来る。農業は農産物で勝負するものだ。その人の生い立ちは関係ない。どういう作物を作っているか、牛はどういう牛をつないでいるのかが大切なことだ。後継者にもこれを突き詰めて欲しい。農業は面白くなければなら

らない、儲かることも大切だが、牛舎でも田んぼでもさっと見ればいつまでたっても変わらない。見えないものが見えるようになってくるとそこに長くいるようになり、面白くて時間を忘れるようになる。長い時間居た農業人ほどいいものを作る。若い人には自分でどういう農業をやりたいかなかなか見えてこないと思う。

最終的には農産物は量だが、量より質ととらえてくると面白くなる。知り合いの農家に苗を作る人がいるが、美味しいので毎年買いに行く。そのとき色々な評価をするが、翌年必ず改良をしていく。こうなると農業は面白くなるし、その人の名前のある商品を求めてお客が来る。若い人は自分で考えて最後は自分自身との戦いだ。相手は自分しかない、それが農業だ。

子供には30歳までに親を越えろと言っている。親を踏み倒しても踏み越えてでも次へ進むことで飯南町の畜産100年の節目を迎えることが出来る。

最後に行政に望むことだが、人を育てるには金が必要だ。今はどぶに捨てるつもりで若者に投資しておけば、必ず将来を担う人材が育つ。人づくりにお金を惜しまず投資して欲しい。

編集後記

飯南町議会はこの7月末で改選後2年を経過することから、委員会条例に基づき常任委員会など議会構成が再編されます。

先の改選後、初議会における議員懇談会において、正副議長2年交替を全議員一致で申し合わせしており、町民に理解される明快な結果を今月中に示すこととなります。

我々議会広報編集委員会も今号が最後の編集でした。「議案一覧と採決結果を表で掲示・討議要約・常任委員会報告の充実」など、新たな視点から議会の様子をお伝えしましたが、いかがだったでしょうか。

(株)サプロ島根の一方的な破産申立に見られるように、懸案事項とリスクを同時に抱えた事業は、最悪の場合町民に与える影響は計り知れませんが、JA肥育センター廃止後の方向付けや里山コミッションの新展開など、町の独自政策は問題山積しており、議会の存在意義はますます大きくなっています。

8月より新体制で臨みますが、引き続き皆様からのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

議会広報編集委員会

石原敏郎